

日さく、70歳に定年延長

若手・中堅社員に技術伝承

【さいたま】日さく（さいたま市大宮区、若林直樹社長）は、4月に定年を65歳から70歳に延長し、継続雇用

現場経験も豊富なシニア社員の確保により、若手・中堅社員への技術伝承を図る。

若林社長は「同一労働同一賃金の原則を重視した。65歳から70歳雇用は、会社から継続勤務の要望があり、本人も希望する場合に適用される。」

日さくは地下水をくみ上げるための井戸を掘削する「さく井工

事」などを手がける。井戸の耐用年数は一般的に20―30年だが、同社の強みは高い技術に裏打ちされた施工品質

少子高齢化による従業員不足に対応するほか、高い技術力を持ち

「さく井工」の従業員は「同一労働同一賃金の原則を重視した。65歳から70歳雇用は、会社から継続勤務の要望があり、本人も希望する場合に適用される。」

日さくは地下水をくみ上げるための井戸を掘削する「さく井工」の従業員は「同一労働同一賃金の原則を重視した。65歳から70歳雇用は、会社から継続勤務の要望があり、本人も希望する場合に適用される。」